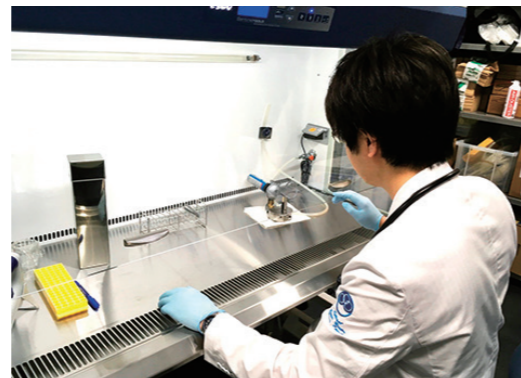


先端医療科におけるがん新薬早期開発専門研修で世界レベル次世代リーダーを目指す！

診療科としての人材育成のポイント

近年、がん新薬早期開発（Phase 1）に於いては精密化・個別化・高速化・国際化等の様相を含め急速な変遷を遂げています。国立がん研究センター中央病院・先端医療科の研修プログラムにおける最新知識・技術の習得により、日本におけるがん早期新薬開発の次世代指導者育成を行います。具体的には各種専門医取得、連携大学院学位の取得に留まることなく、臨床研究をはじめトランスレーショナルリサーチ・基礎研究の知識・技術の習得をも視野に、新薬早期開発に必要な知識・技術すべてをカバーでき、世界の主要新薬早期開発リーダーと将来的に共同できるグローバルレベルの次世代リーダー育成を目指した専門的研修を受けることが可能です。がん新薬早期開発に興味を持たれている若手医師の皆さんをお待ちしています。



国立がん研究センター中央病院・先端医療科での研修の特徴

- 日本のがん早期新薬開発（Phase 1）の中核を担う施設（ファースト・イン・マン試験を含めた Phase 1 治験を常時 40-50 試験実施中）での早期新薬開発治験を含めた豊富な臨床経験
- 新薬開発に関連するトランスレーショナルリサーチを含めた基礎～臨床研究のチャンス
- Phase 1 治験を通じたゲノム医療の実装化・がん早期新薬開発治験の実践および経験
- 国際色豊かな診療科特徴を活かした、海外の研究者・施設との交流・コラボレーション、研修希望者の将来的なニーズにマッチする、多種多様かつ柔軟性のある研修プログラム

レジデント3年コース

1年目	2年目	3年目
内科レジデント研修 以下の科から3診療科以上を選択 ・1～3か月 呼吸器、消化管、肝胆膵、腫瘍内科、血液腫瘍 ・2か月 CCM ・1か月 緩和医療	先端医療科レジデント研修 先端医療科においてがん新薬早期開発に特化した基本的研修を行う。	

連携大学院コース（指導者育成一貫コース）

がん専門修練医コース（2年）

1年目	2年目
チーフレジデント 先端医療科においてがん新薬早期開発に特化した基本的研修を行う	専門的選択研修 チーフレジデント継続または TR・基礎研究の知識・技術の習得を視野に、研究所で1年間の研修も可能

制度を活用した学位取得も選択可

研修に関するお問い合わせ先

国立がん研究センター 中央病院
先端医療科



教育担当（科長）：
山本 昇



メールアドレス：
nbryamam@ncc.go.jp

中央病院レジデントプログラム HP

<https://www.ncc.go.jp/jp/ncch/division/cepcd/resident/index.html>



Facebook 中央病院 教育・研修情報

<https://ja-jp.facebook.com/CancerEducation/>



実績で見る中央病院・先端医療科（2020年度）

Phase 1 治験数

83

（日本第1位、アジア第2位）

新薬（治験薬）投与（C1D1）実績

241

新患者数

432

再診患者数
（治験外来）

3,680



充実した研究指導の成果としての英文論文業績（研修者が First author：2020年度）

- ・Sato J, et al. Lenvatinib in patients with advanced or metastatic thymic carcinoma (REMORA): a multicentre, phase 2 trial. *The Lancet Oncology* 21 (6) 843-850, 2020
- ・Mizuno, et al. Number of metastatic organs negatively affects the treatment sequence in patients with EGFR-TKI failure. *Thorac Cancer* 11(4) 2020
- ・Mizuno, et al. Neoadjuvant chemotherapy promotes the expression of HER3 in patients with ovarian cancer. *Oncology Letters* 20(6):336.2020
- ・Mizuno, et al. HER3 protein expression as a risk factor for post-operative recurrence in patients with early-stage adenocarcinoma and adenocarcinoma of the cervix. *Oncology Letters* 20(4):38.2020
- ・Ida H, et al. Clinical characteristics of adrenal insufficiency as an immune-related adverse event in non-small-cell lung cancer. *Med Oncol.* 16;37(4):30. 2020
- ・Ebata T, et al. The improved survival among patients enrolled in oncology phase 1 trials in recent decades. *Cancer Chemother Pharmacol* 85(2):449-459, 2020
- ・Ebata T, et al. Phase I study of the indoleamine 2,3-dioxygenase 1 inhibitor navoximod (GDC-0919) as monotherapy and in combination with the PD-L1 inhibitor atezolizumab in Japanese patients with advanced solid tumours *Invest New Drug* 38(2) 468-477, 2020

レジデントプログラム ■ 先端医療科

§ 推奨するコース

●レジデント3年コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※サブスペシャリティ専門医:がん薬物療法専門医 ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ者
研修目的	・第1相試験を中心にがん早期新薬開発における高度な知識・技能習得を目指す ・専門医取得:がん薬物療法専門医・内科専門医など
研修内容	・研修期間のうち1年以上先端医療科に在籍しそれ以外の期間は自由選択(最大21か月) ※呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、腫瘍内科、血液腫瘍科、病理科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能(1診療科3か月を原則とする) ※6か月まで研究所、東病院交流研修、中央病院以外での研修等が認められる ※原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修実施
研修期間	3年 ※病院の規定に基づきCCM・緩和医療研修を行う
研修の特色	・先端医療科研修で最も推奨される基本コースです。 ・日本のがん早期新薬開発(Phase 1)中枢施設ならではの豊富な臨床経験が可能です。 ・先端医療科(第1相試験/がん新薬早期開発)を中心に幅広い診療経験が可能です。 ・第1相試験やTRを中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得を目指します。 ・国際学会発表や論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。 ・研修環境を最大限活かすための、指導医、教育カンファレンスが充実している。
その他 (症例数や手術件数など)	・新薬の第1相試験(治験課題数)は国内トップの常時50試験前後実施中 ・新薬の第1相試験(治験)C1D1実施数:218名(2019年実績)

●がん専門修練医コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)、かつ、サブスペシャリティ領域専門医取得済み、もしくは取得見込みで、当院での研修により当該領域に特化した修練を目指す者 ※サブスペシャリティ専門医:がん薬物療法専門医 ・当センターレジデント修了者あるいは同等の経験と学識を有する者 ・5年以上の臨床経験を有し、特にがん早期新薬開発に強い興味をもつ者
研修目的	第1相試験を中心にがん早期新薬開発における高度な知識・技能習得を目指す
研修内容	2年間の研修期間のうち1年間は先端医療科に在籍する ※先端医療科以外の1年間は臨床を離れ、研究所等でのTR研究に特化した研修が可能 ※新薬開発に特化した高度な研修内容が習得可能である2年間先端医療科選択も可能 ※在籍中に研究成果の国際学会での発表及び論文執筆を行う ※機会に応じて、海外研究者等との国際連携機会を得る事が可能
研修期間	2年 ※そのうち一定期間の交流研修を認める
研修の特色	・がん新薬早期開発において最もお勤めの研修プログラムです。5年以上の臨床経験を有し、レジデント正規コース修了者に相当する経験を有する医師を対象とします。 ・レジデントコースよりも、より高度の専門性、経験、技能取得等が研修可能な「がん専門修練医」プログラムです。 ・研修年限は2年で、新薬の第1相試験を中心に早期開発における知識・技術の習得により、日本のがん早期新薬開発を将来的に牽引し、グローバルレベルの国際的競争力を兼ね備えた次世代リーダー人材育成を行います。希望者には研究所等でのトランスレーショナルリサーチ(TR)および海外研究者等との国際交流・共同研究等の機会をサポートします。
その他 (症例数や手術件数など)	・新薬の第1相試験(治験課題数)は国内トップの常時50試験前後実施中 ・新薬の第1相試験(治験)C1D1実施数:218名(2019年実績)

§ 副次的なコース

●レジデント2年コース

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※サブスペシャリティ専門医:がん薬物療法専門医 ・がん早期新薬開発に強い興味をもつ者
研修目的	・第1相試験を中心にがん早期新薬開発における高度な知識・技能習得を目指す ・専門医取得:がん薬物療法専門医・内科専門医など
研修内容	・研修期間のうち1年以上先端医療科に在籍する ※呼吸器内科、消化管内科、肝胆膵内科、腫瘍内科、血液腫瘍科、病理科、呼吸器内視鏡、放射線治療科等の希望診療科も研修可能(1診療科3か月を原則とする) ※3か月まで研究所、東病院交流研修、中央病院以外での研修等が認められる ※原則として2年目以降に日本臨床腫瘍学会教育研修プログラムに則った外来研修実施
研修期間	2年 ※病院の規定に基づきCCM・緩和医療研修を行う
研修の特色	・日本のがん早期新薬開発(Phase 1)中枢施設ならではの豊富な臨床経験が可能 ・先端医療科(第1相試験/がん新薬早期開発)を中心に幅広い診療経験が可能です。 ・第1相試験やTRを中心にがん新薬早期開発における基本的知識・技術の習得を目指します。 ・国際学会発表や論文執筆等の研究活動の機会も十分確保されています。 ・研修環境を最大限活かすための、指導医、教育カンファレンスが充実している。
その他 (症例数や手術件数など)	・新薬の第1相試験(治験課題数)は国内トップの常時50試験前後実施中 ・新薬の第1相試験(治験)C1D1実施数:218名(2019年実績)

●連携大学院コース(先端医療科 指導者育成一貫コース)

対象者	・新専門医制度対象者は基本領域専門医取得済み、もしくは取得見込み(旧専門医制度対象者はその基本領域の専門医もしくは認定医等を取得済み、もしくは取得見込み)で、当院での研修によりサブスペシャリティ専門医を目指す者 ※サブスペシャリティ専門医:がん薬物療法専門医 ・研究・TR等に基づき連携大学院制度による学位取得を目指す者、尚且つがん早期新薬開発に強い興味をもつ医師
研修目的	早期新薬開発を中心とした研修を行い専門医と学位取得を目指した研究に取り組む。
研修内容	・レジデント2年コースに、2年のがん専門修練医コースをあわせたプログラムです。 ・連携大学院制度を用いた学位取得を念頭に、1年目から研究の指導を受けられます。 ※前半の2年の研修期間は、当該コースの内容に準じます。 ※後半2年のがん専門修練医コースは、当該コースの内容に準じます。
研修期間	4年(レジデント2年+がん専門修練医2年) ※がん専門修練医への採用には再度試験を行う ※病院の規定に基づきCCM・緩和医療研修を行う
研修の特色	・連携大学院での学位取得を目標としたがん新薬早期開発における4年一貫の指導者育成コース研修プログラムです。5年以上の臨床経験を有し、新薬早期開発における知識・技術の習得により、日本におけるがん早期新薬開発の次世代指導者育成を行います。TR・基礎研究の知識・技術の習得を視野に、研究所で1年間の研修を行います。 ・レジデントコースから継続一貫して研修を行うことで、新薬早期開発に必要な知識・技術すべてをカバーでき、世界の主要新薬早期開発リーダーと将来的に共同できるグローバルレベルの次世代リーダー育成を目指した専門的コースです。
その他 (症例数や手術件数など)	・新薬の第1相試験(治験課題数)は国内トップの常時50試験前後実施中 ・新薬の第1相試験(治験)C1D1実施数:218名(2019年実績)

§ その他のコース

●レジデント短期コース

対象者: 希望される期間で、がん研究センターの研修機会を活かしたい方
期間・研修方法: 6か月～1年6か月。先端医療科研修(他科ローテーションも相談可)
※6か月を超える場合は病院の規定に基づき CCM・緩和医療研修を行う